

政策評価書（要旨）（事前の事業評価）

事業名	新戦車(その1)	担当部局	管理局開発計画課
政策分野	防衛装備の適正な維持・管理(研究開発)	実施時期	平成13年6～8月

事業の内容 現有戦車の後継として、ライフサイクルコストを含めた経費を抑制しつつ、火力・防護力・機動力等の向上を図るとともに、IT革命に対応した高度なC4I機能等を付加させた新戦車を開発する。	14 15 16 17 18 19 20 21 完了年度 試作(1) ← 試作(2) ← 試作(3) ← 試作(4) ← 試作(5) → 実用試験 → ← 技術試験 →	21年度 経費総額 約513億円
	所要経費 約74億円(後年度負担額を含む。)	

評価の内容 事業の目的 戦車は、陸上自衛隊の対機甲戦闘及び機動打撃に使用するための装備であるが、 将来戦において優位な態勢を確立するには、C4Iの連接による情報を戦車間や部隊との間で共有し、迅速・正確に火力と機動力を指揮統制できる能力等が必要となるため、各種の能力を向上させ全国配備に適した新戦車を開発し、将来戦においても有効な対機甲戦闘及び機動打撃が行い得るようにすることを目的とする。	事業実施の効果・時期 1 事業実施の効果 単車内及び近傍戦車相互に情報を共有 できる能力や基幹車隊指揮統制システム ^(注) との連接、対象戦車を確実に撃破できる火力、戦略機動性及び戦術機動性、総合的な防護力を有する新戦車を開発することにより、有事における 対機甲戦闘及び機動打撃能力の飛躍的な向上 が期待されるとともに、民生品の活用、部品の共通化等による取得単価の抑制等により、 ライフサイクルコスト（装備品等の開発から用途廃止までにかかる総経費）の抑制が可能 となる。 2 事業実施時期 平成21年度に開発を完了する予定である。
事業の必要性・適正性 ① 現有戦車の後継については、将来戦に必要なC4I連接による情報共有・指揮統制能力の付加、火力・防護力・機動力の向上、 戦略機動性の確保 等の性能を満たす必要がある。 ② 諸外国の戦車は、 トレーラー利用を可能とする小型軽量化を実施しておらず、我が国としてそのまま利活用できるC4I機能も搭載していない ため、現有戦車の後継の装備化において目標としている水準を満足しない。また、90式戦車の改修についても、重量等の点で目標とする水準を満足せず、C4I機能の追加等の改修を実施するとしても、経費面・運用面において 効率的とは言えない 。以上から判断した場合、開発に代わり得る有効な手段はなく、各種任務に必要な性能を満足する戦車を装備するためには、 新戦車の国内開発を行うことが適当である 。	

今後の対応 将来戦に対応した対機甲戦闘・機動打撃能力を戦車に付与できると評価できることから、14年度概算要求を実施する。	その他の参考情報 ① 運用の構想、試作品図及び開発線表の詳細: 別紙1 ② 諸外国の類似装備及び現有装備品との比較: 別紙2 ③ 「C4I」…Command, Control, Communications, Computers, and Intelligence (指揮・統制・通信・コンピュータ・情報) 注: 基幹車隊指揮統制システム…野外コンピュータ・ネットワークにより、連隊における指揮命令等に必要データを迅速・効率的に伝達するシステム
--	---

新戦車

運用の構想



試作品図



開発線表

H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
					部 研									
研究試作(将来火炮・弾薬(その1))			所内試験		試作(その1)						実 試			
研究試作(将来火炮・弾薬(その2))				所内試験		試作(その2)								
研究試作(将来車両装置(その1))					所内試験		試作(その3)							
研究試作(将来車両装置(その2))						所内試験		試作(その4)						
						所内試験		試作(その5)						
								技 試						

新戦車

現有装備品との比較

名 称	新戦車	90式戦車	74式戦車
全備重量	90式戦車より軽量化 ^{注1}	約50t	約38t
乗員数	90式戦車と同等	3	4
主 砲	90式戦車より高威力化	120mm滑腔砲	105mm戦車砲
最高速度	90式戦車と同等	約70km/h	53km/h
C4I機能 ^{注2}	○	×	×

(注1) 民生用特大トレーラで運搬できる上限は40t程度

(注2) 自己位置評定と僚車間等とのデータ共有機能

諸外国の類似装備

名 称	M1A2	レオパルド2	ルクレール
国 名	アメリカ	ドイツ	フランス
全備重量	約69t	約55t	約55t
乗員数	4	4	3
主 砲	120mm滑腔砲	120mm滑腔砲	120mm滑腔砲
最高速度	67km/h	72km/h	71km/h
C4I機能 ^注	○	△ (自己位置評定のみ)	○

(資料: Federation of American Scientists)

(注) 外国戦車のIT機能については、日本のC4Iシステムに合わせた改修等が必要で、そのまま導入できる訳ではない。